

第3学年 美術科・総合的な学習の時間 学習指導案

指導者 ○○ ○○
○○ ○○
○○ ○○
○○ ○○

1 単元名 体験を共有しよう～生き方学習「福岡アジア美術館鑑賞学習」発表会～

2 指導観

○ 単元観

現在、鑑賞ということばは日常よく耳にする。芸術の分野に関わらず趣味の分野でも幅広く使われている。学習指導要領にも鑑賞学習の幅広い活用が記されている。このことから考えると、できるだけ本物を鑑賞させることが重要となってくる。

福岡市では、学校現場において施設を使った体験学習が行われている。この学習では実物の作品や文化的、歴史的資料を実際に本物を鑑賞することで様々な教育的な効果が得られている。

実際に、鑑賞活動を通して分析力、洞察力、観察力、コミュニケーション能力などが育成されていることに気付く。さらに鑑賞活動から生まれた新たな興味関心（テーマ）を深く掘り下げ表現活動に結びつけることによって、表現力やコミュニケーション能力が磨かれる。すなわち「生きる力」（生き方学習）の育成につながっている。

以上のことを考えると、美術館における鑑賞授業は、生涯学習という観点を考えても必要である。この学習を義務教育の最終学年に行うことは、大変有意義な学習内容であると考えられる。

○ 生徒観

3年生は、男子36人、女子36人の合計72人で、学級数2クラスという少ない人数である。入学当時から、行事に対して積極的に取り組み、合唱などの歌声も大変元気である。また、文章を書くことに関しても、熱心な生徒が多い。修学旅行では、歴史的な建築物に感動し、歓声を上げる素直さと感性を持っている。

学年の集会や行事などを実行委員会を中心に実施してきているため、体験学習なども自ら意欲的に参加する生徒が多い。表現活動も様々な形で行ってきているので、今回の学習も興味・関心をもって取り組んでいる。

○ 表現の場の内容及び工夫

今回は、体育館において、ポスターセッションの形式に、参加者（聴き手）との対話形式を加えて発表を行う。発表グループは、各テーマごととする。1グループの人数は最高を6人までとし、発表グループをつくる。また、時間内にすべてのグループが発表するため、全グループの資料を前もって掲示しておく。掲示物については、各窓にボードを設置して掲示しやすいように工夫している。発表者と参加者（聴き手）の位置をわかりやすくするため、参加者の位置には箱椅子を用意しておく。

発表に関しては、1回の発表の持ち時間を7分、後の3分間で、参加者はワークシートの記入を行い、発表者も反省や自己評価を記入する。その際、発表者が自己評価をよりよいものにするために発表グループより2名の生徒が参加者側に入り評価していく。したがって、発表はグループの3～4名で行い、2名が聞き手になる。その後、発表者が新たな参加者を募るために呼びかけを2分間行い、参加者はその間に新たなグループの発表場所へ移動する。司会進行は、集会実行委員で行うが、司会進行の生徒が活動する場面では、職員が行う。

発表者と参加者が意見交換（コミュニケーション）をとり、発表者が提示した事を参加者も一緒に活動（コラボレーション）する体験型の発表を創りあげる。その結果、同じ目標に向かって活動する集団（コミュニティ）が成立する。生徒たちがこの活動で、幅広い考えや感動を共有することを目指したい。

3 指導計画 20時間

第1次	オリエンテーション	1時間
第2次	事前学習・活動グループ編成	1時間
第3次	事前指導	1時間
第5～7次	美術館鑑賞授業	3時間
第8～9次	テーマ設定・美術館内調べ学習	3時間
第10次	グループ会議	1時間
第11～16次	資料作成	6時間
第17次	学級内発表会リハーサル	1時間
第18次	学年発表会1	1時間（本時1／2）
第19次	学年発表会2	1時間
第20次	学習のまとめ	1時間

4 本時 平成21年10月2日（金） 第5校時 18／20時間 体育館にて

（1）本時の指導観

一方的な発表ではなく、参加者（聴き手）の意見を聴きながら発表できるよう配慮し、参加者とのやりとりを通して、コミュニケーション能力を身につけさせたい。

参加者とのコミュニケーションの中で、新たなものの見方・考え方に気付くことにより、自分たちの体験学習で得た知識や考えをより深め、参加者と共有することで感動をさらに幅広いものとさせる。

（2）主眼

○一方的な発表ではなく、参加者とのコミュニケーションをとることができる。

○発表を通して、体験した内容にさらなる考えが加わり、幅広い視点に立って学習のまとめをすることができる。

（3）準備

〔職員〕

①掲示用ボード12枚 ②箱椅子72個 ③マイク1本 ④掲示用時計1個 ⑤評価用シート

〔生徒〕

⑥掲示資料 ⑦指示棒 ⑧発表原稿 ⑨各グループで発表に必要な物 ⑩ファイル

(4) 展開

学 習 活 動 ・ 内 容	準備	学 習 の 手 立 て	形態	配時
1 本時の学習のねらいや流れの確認をする。 発表者と聞き手のコミュニケーションをとり、感動を共有しよう。	①② ⑥	・会場準備と資料の掲示は、昼休みに行わせる。 ・スケジュールを確実に伝えさせる。	一斉	5
2 司会者は進行する。	③④			
①第1グループは移動し、発表の準備をする。 ②発表者は呼びかけをする。 ③参加者は移動する。 ④第1グループは発表をする。 ⑤他の生徒は、発表に参加する。 ⑥発表者と参加者は、それぞれのワークシートに記入する。	③④ ③④ ⑥⑦ ⑧⑨ ⑤⑩	・これまでの学習を振り替えさせる。 ・敏速に移動させる。 ・計時をして確実に時間を知らせる。 ・発表者の自己評価を客観的にも行えるように発表者のグループから1～2名参加者として参加させる。 ・聞き手に入る生徒は、毎回交代させる ・発表は、全グループが発表し、できるだけ多くのグループの発表を聞けるように、発表順をスライドさせる。 ・発表会に参加できていない生徒や移動の遅い生徒がいれば指導する。 ・発表者と参加者のコミュニケーションがとれるよう支援する。 ・記入できていない生徒がいれば、個別に指導する。	一斉 班 個 班 個 班 個	1 2 7 3
・第2グループの発表。 (上記の <input type="text"/> を繰り返す。) ・第3グループの発表。 (上記の <input type="text"/> を繰り返す。)				1 3 1 3
3 全体で集合し、発表会の講評を聞く。		・発表会の様子や内容について、アドバイスをを行う。	一斉	4
4 本時のまとめと次時の予告を聞く。			一斉	2